

復活の火曜日の説教

金 大烈 神父 2010年4月6日(火)

《復活の体験》

今週は、私も復活した気持ちで、説教を休もうかと思ったのですが、今日の福音(ヨハネ 20・11-18)のみ言葉は、本当に大切なものなので、一言だけ申し上げます。

初めてイエス様が表れた時、マグダラのマリアは園丁だと思いましたね。あれほど必死に探していたイエス様なのに、“顔を見てもそれがイエス様だと分からなかった”ということですよね。イエス様が「マリア」と呼んでくださった途端に目が開き、それがイエス様であると分かったのですね。そして最後の部分で弟子たちに、「わたしは主を見ました。」と言いましたね。

この話は、“私たちが信仰の生活をする中で、本当に大事にしなければならないこと”を示しているのだと思います。

皆様はご聖体をいただく時に、どのくらい実感しながらイエス様を受け入れているのでしょうか。これは、2000年前にイエス様の復活を体験した人々でも全く同じでした。その人々も、容易に実感できたわけではなかったのです。

エマオへと旅する二人の弟子の話にもありますよね。イエス様がパンを裂いて与えた途端に目が開けて、「こんなに待ち望んでいたキリストだった」と分かったのですよね。

では、なぜその人々は、最初は分からなかったのでしょうか。これは昨年も申し上げた話です。今、聖書の神学者たち、教会のいろいろな神学者たちは、「たぶんイエス様は亡くなる前の姿では表れなかったのだろう。」「これは、本当に不思議な力によって、弟子たちが一緒に感じられた心の体験なのだろう。」と言っています。私も正しい考えだろうと思います。ですから、誰にも言われなくても、誰からも聞かなくても、弟子たちやいろいろなグループの人々、ついて来た婦人たちは、ある日突然、説明できない強い神秘的な体験によって、「ああ、イエス様のそのみ言葉は正しかった。その約束は成し遂げられた。」と、イエス・キリストの復活を信じたのだと思います。

それから、ローマやいろいろな国々で初代教会である共同体が作られましたね。その時の人々は誰も、イエス・キリストが活着しているうちには会ってはいません。福音作家のマタイ・ルカ・マルコ・ヨハネの4人も、イエス様を直接見てはいません。しかし、直接会ってなくても厳しい迫害の中で、自分の命を全部捧げて、“復活されたイエス・キリストを信じます”という告白ができたのです。これは、完全に聖霊の働きです。私たちも、ただ理論的に、頭だけでイエス・キリストを見ようとしていたのでは、洗礼を受けて信仰の生活をしていても、信仰からは遠ざかってしまいます。

皆様、本当に復活の体験をするためには、教会が何度も教えている基本的な信仰を強めなければなりません。同じご聖体でも、人によっては、仕方なく受け入れ、ただ口に入れて終わってしまいます。しかし人によっては、何か月も何年も待って、いただく直前に「私は、本当にこのご聖体をいただく

のにふさわしいのか」といろいろな苦しみ、悩み、恐れを感じながら手を伸ばしていただきます。

まず、望まない人には体験はできません。

次に、望んでも正しく望まなければそれも体験はできません。

三番目に、このような望みがきちんとあって正しかったとしても、神様、イエス様が、してくださらなければそれもできません。

結局、私たちの正しくて強い望み、そして神様が応じてくださらなければ、私たちは死ぬまで、あまり感じられない可能性もあります。だから、今も、そして何千年か後にも、「イエス・キリストは私の救い主です。私の神様です。」という信仰を持つ人は限られてしまうのです。

皆様、願ってください。必ず答えてくださるのがイエス様です。

ありがとうございました。